

埼玉県生協連 第53回通常総会

行政・県議会・友誼団体からのご祝辞

CO・OP 埼玉県生活協同組合連合会





埼玉県生活協同組合連合会第 53 回通常総会に寄せて

埼玉県知事 大野 元裕

本日ここに、埼玉県生活協同組合連合会の第 53 回通常総会が開催されますことを心からお喜び申し上げます。

吉川尚彦会長理事をはじめとする貴連合会の皆様におかれては、県内生協の指導的団体として、生協の適正な運営に努められるとともに、消費者の権利の擁護や消費者市民社会の確立、食の安全など、様々な分野で県の消費者行政の推進に格別の御支援、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

インターネットやスマートフォンの普及によるデジタル化の進展やサービスの多様化など社会経済の変化に伴い、消費者トラブルは複雑かつ多様化し、県内の相談件数も依然として高止まりの状況です。

そういった中、高齢者等の被害防止の取組では「消費者被害防止サポーター」として1,100名を超える方々に、地域での見守りや啓発活動で御活躍いただいております。生協組合員の皆様にもサポーターとして多くの御参加をいただいておりますことをこの場をお借りして感謝申し上げます。

現在、本県は、人口減少・超少子高齢社会の到来、さらには自然災害の激甚化・頻発化という二つの歴史的課題に直面しています。こうした歴史的課題に敢然と立ち向かい、10年先、20年先を見据えた未来志向の施策を進めることで、持続的に発展する埼玉県を築いていきたいと考えております。そのために、埼玉版スーパー・シティプロジェクトの更なる拡大、埼玉版FEMAの推進による危機対応力の強化、DXの推進と不断の行政改革、高齢者や子どもへの支援の充実、女性活躍の推進など、本県の持続的発展に向けた取組を力強く推し進めてまいります。

相互扶助・助け合いの精神の下、安心して暮らし続けられる地域社会づくりを目指し、様々な取組を実践してこられた御参会の皆様におかれましては、引き続き、格別のお力添えをお願い申し上げます。

結びに、埼玉県生活協同組合連合会のますますの御発展と皆様方のさらなる御健勝、御活躍を心から祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。



埼玉県生活協同組合連合会第 53 回通常総会に寄せて

埼玉県議会議員 齊藤 邦明

埼玉県生活協同組合連合会の皆様には、第 53 回通常総会が開催されますことを心からお慶び申し上げます。

貴連合会におかれましては、1972 年の設立以来、50 年以上の長きにわたり、県内の生活協同組合の取りまとめ役として、本県の生活協同組合事業の振興と発展、並びに県民の暮らしの向上に多大なる御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行して 1 年が経ち、社会経済活動は回復に向かう一方で、海外情勢を背景にしたエネルギー・物価の高騰など、経済を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

少子高齢化やそれに伴う労働力人口の減少、人口減少が続く中でも安心して暮らし続けられる地域社会づくり、さらには激甚化・頻発化する災害など、私たちは多くの課題を乗り越えていかなければなりません。また、こうした日本全体に共通する社会環境に加え、それぞれの地域が抱える課題やニーズは、これまで以上に多様化・複雑化していくと思います。

このような中、地域の居場所づくりや生活困窮者支援をはじめ、消費者被害の防止、食の安全、環境問題や防災・減災への対応など、多様な活動を通じて、安心できる地域コミュニティづくりに取り組んでいる貴連合会の役割は一層重要なものとなっています。これからも皆様方が力を結集し、長年にわたり培ってこられた経験を踏まえ、県民のよりよい暮らしの実現のためにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

私たち県議会議員は、何よりもまず、住民の皆様と膝を交えて話し、各地域の現状を把握することが大切だと考えます。そして地域社会の持続可能な発展のため、数十年先を見据えたあらゆることを想定し、未来志向の施策を展開できるよう努めてまいります。

結びに、埼玉県生活協同組合連合会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を心から祈念申し上げまして、挨拶といたします。



埼玉県生協連第 53 回通常総会 ご挨拶

埼玉県議会自由民主党議員団

団長 田村 琢実

埼玉県生活協同組合連合会第 53 回通常総会の開催を心よりお祝い申し上げます。

生協連の皆様の食に対する安全の確保や環境の保全、県民の安心・安全に重きを置いた多岐にわたる活動に心より敬意を表します。

そして、今年発生した能登半島地震、豊後水道地震、台湾東部沖地震で犠牲になられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、我が団では、昨年の統一地方選挙を終え、新体制になって以降、7つのプロジェクトチームを立ち上げました。その1つである「スクラップヤード対策プロジェクトチーム」は、金属スクラップ及び使用済みプラスチック等を保管する施設（スクラップヤード）での保管に伴う騒音や振動、不適切な保管による敷地外への崩落や火災の発生等が起きている状況を鑑み、生活環境の保全等に寄与する条例の制定・成立を目的に立ち上げたものです。

現行の「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）」では金属スクラップ及び使用済みプラスチックは、規制対象となる廃棄物には該当せず、直接規制する法令等がないために対応に苦慮する状況が続いておりますが、これまでの日常を取り戻せるよう、この問題に取り組んで参ります。

また、昨年の5月に新型コロナウイルスが、季節性インフルエンザと同じ「5類感染症」に移行され1年が経過しました。この間、マスクを着用する方は徐々に減り、外国人旅行者が増加するなど、街角にはコロナ渦前の賑わいが戻っておりますが、感染症がなくなったわけではありません。コロナ、そしてコロナ以外の感染症に対して警戒感を持ち、状況を注視し、必要な対策を講じてまいります。

結びに、埼玉県生活協同組合連合会のますますの御発展と会員の皆様のご健勝、御活躍を心から祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。



埼玉県生活協同組合連合会第 53 回通常総会 ご挨拶

埼玉民主フォーラム

代表 田並 尚明

埼玉県生活協同組合連合会の第 53 回通常総会の開催、誠におめでとうございます。また、埼玉県生協連の皆様には、食の安全や消費者被害の防止活動をはじめ、福祉、環境、防災等々、幅広い分野におきまして、地域の課題解決、県民生活の向上のため、様々な活動を通し、長年にわたりご尽力をいただいておりますことに改めまして感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスの 5 類移行から 1 年が経過し、私たちの生活もコロナ禍以前に近い形に戻り、県内の社会経済活動も活気を取り戻しつつあります。

しかしながら、急激な円安や燃料高による影響をはじめ、コロナ禍で浮き彫りとなった非正規雇用労働者の生活困窮や女性・子どもの自殺者数の増加、孤独・孤立感の深刻化などといった課題も依然として存在しております。

また、人口減少・超少子高齢社会という構造的な大きな課題に社会全体としてどう向き合い、対処していくのか、気候変動への対応や予期できない激甚化・頻発化する災害や感染症などへの危機管理対応など、解決すべき課題は多岐にわたります。

このような状況の中、私どもは、生活協同組合の役割がますます重要になっていると感じております。生協は、組合員の出資、参加を基本とし、社会の課題解決を目的とする協同組合であり、分断と孤立が進む現代社会の中で、希望の灯をともし存在として、地域に根差した活動を続けておられます。一昨年に施行された労働者協同組合法によって、生協の活動範囲も更に広がり、今後も地域の活性化や社会的課題の解決に向けた取り組みを牽引する存在であり続けていただきたいと思います。

私たち埼玉民主フォーラムとしても、引き続き、生協連の皆様と連携をしながら、持続可能な社会と「誰一人取り残さない埼玉県」の実現に向けて、積極的に政策提言を行ってまいりますので、今後ともご指導のほど宜しくお願いいたします。

結びに、貴連合会の益々のご発展と、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、お祝いの挨拶とさせていただきます。



埼玉県生活協同組合連合会第 53 回通常総会 ご挨拶

埼玉県議会公明党議員団

団長 蒲生 徳明

埼玉県生活協同組合連合会の第 53 回通常総会の開催、心よりお慶び申し上げます。

埼玉県生協連の皆様は、長年にわたり各自治体や議会、そして何よりも消費者現場と連携を取る中で、食や健康、そして環境問題や平和活動、防災減災、介護支援、奨学金支援、生活困窮者支援、消費者被害の防止活動など、本当に幅広い分野で活動が続けてこられました。

併せて、新たな目標と未来を見据えたビジョンを掲げ、持続可能な社会の発展を目指し、日々活動を進められておりますことに、心から敬意を表します。

私達、埼玉県議会公明党議員団も 3 月 18 日に埼玉生協連の代表の皆様との懇談会で、埼玉県生協連の活動状況や課題等について意見交換をさせていただきました。

その中では、県内生協グループの介護福祉事業の現状や、県内市町村と会員生協が結んでいる防災協定について、又、生協が行っている高校生への奨学金制度について、そして、日々県内の消費者を脅かす消費者被害に関する埼玉県と連携した取り組み、そして現在貴生協連が抱える課題についても様々意見を交わしました。

埼玉県においては、私も本年 2 月定例議会代表質問で取り上げましたが、人口減少・超少子高齢化社会の到来や激甚化・頻発化する自然災害、パンデミックなどへの対応など取り組まなければならない諸問題が山積しています。

そして何よりも生活現場に関わる解決すべき問題も多くあります。これらの諸課題に多方面から解決、改善に向けて取り組まれている生協連の皆様の活動に対して重ねて敬意と県民の側から御礼を申し上げます。

諸問題解決のためには、生活現場から一つ一つ県の政策を見直すべきと考えます。生協連の皆様は、正に生活者を中心とした組織であります。この点からも我が党の政策と共通する部分も多く、これからは積極的に皆様と意見を交わしながら我が県議団の政策と取り組みに反映させたいと考えておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。



埼玉県生協連の更なる発展を願って

埼玉県議会 無所属県民会議
代表 井上 航

埼玉県生活協同組合連合会 第53回通常総会の開催、誠におめでとうございます。

貴連合会の皆様には、日頃より様々な事業を通して、食の安全や環境問題・消費者行政への協力などに取り組んでいただいていることに心より感謝を申し上げます。また、本年1月1日に発生した能登半島地震に対しては、貴連合会の各会員団体において緊急支援募金を行うなど、様々な支援活動を行なってくださったことにも重ねて敬意を表します。

さて、新型コロナウイルス感染症も昨年5月から「5類感染症」になりましたが、エネルギー料金や物価高騰などの影響もあり、多くの県民が引き続き厳しい生活を強いられています。

そうした状況を打開すべく、我が会派は貴連合会との意見交換も実施し、“県民会議”の名の通り、県民の声を聞くことを大切にしながら県政発展に取り組んでいます。昨年10月には貴連合会の要望も反映した「令和6年度 埼玉県予算編成に関する要望書」を大野知事に提出しました。

今年度、私たちが重視した政策は「子どもや障がい者等、社会的に弱い立場にある方々への支援」「激甚化する自然災害等、各種危機対応能力の向上」「県の更なる発展に寄与する人材育成の推進」の3本柱です。

中でも、貴連合会の会員である「生活協同組合パルシステム埼玉」には、令和5年度からスタートした孤立した子育てやワンオペ育児などを防止するため、子どもが出生した世帯に対してギフトを贈る「埼玉県子育てファミリー応援事業」に協力いただいております。

事業スタートの昨年6月時点では39市町村での実施でしたが、今年度からは県内全市町村に参加することになりました。本事業が目指す「ベビーギフト等の配付を通じ、社会的に孤立しがちな子育て世帯と市町村とを繋ぐ」という政策目標の実現に向け、更なるご協力をお願い申し上げます。

結びに、貴連合会にはその他にもフードバンクや子ども食堂、学習支援など県内各地で様々な取組においてご活躍いただいております。貴連合会の更なるご発展と会員皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げ、挨拶といたします。



第 53 回生協連総会へのメッセージ

日本共産党埼玉県議会議員団
団長 城下 のり子

埼玉生活協同組合連合会第 53 回総会のご開催、誠におめでとうございます。

生協連のみなさまの生活困窮世帯への食料支援や核兵器をなくすための取り組みなど、いのちと平和を守るみなさまの活動に心より敬意を表すものです。

今年 1 月に行った県議団との懇談の際、介護事業を行っている組合があることから、介護現場での人手不足の話になりました。また「様々な産業が人手不足の中、外国人労働者だよりであるが、いま日本は外国人労働者に選ばれない国になっている」とのお話も伺いました。

「外国人労働者に選ばれない国」になっている根本的な原因は、長期にわたって「賃金が上がらない国」になっていることにあります。1 人当たりの実質賃金はピーク時の 1997 年と 2020 年を比べると、64 万円も下がっているのです。

労働者の賃金が上がらない一方で、大企業は内部留保をため込み、1996 年には約 150 兆円だった内部留保額は、2021 年には約 500 兆円まで増加しています。

労働者の賃金を抜本的に引き上げ、内需を温める必要があります。日本共産党は時限的に内部留保に課税し、その税金をつかって労働者の賃金を上げるなどの「経済再生プラン」を提案しております。連帯して、実現に力をつくしてまいります。

介護現場は介護労働者の賃金が全産業平均より月 7 万円も低いという実態があり、さらに深刻です。党県議団は介護事業者、介護労働者のみなさまとともに、抜本的な賃上げを行うための支援を県に求めてきました。引き続き介護現場の処遇改善に全力をつくしてまいります。

みなさまのますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、総会へのご挨拶とさせていただきます。



埼玉県議会 無所属改革の会

中川 浩

◆自殺者（昨年）３年前に比べ 17%増（埼玉県）

県内の昨年の自殺者数は、令和３年に比べ 17%増えています。

円安に歯止めがかからず物価高騰が今後心配される中、経済的に県民が行き詰まらないようにする為に、今回は書かせて頂きます。

◆収入の厳しい県民の生活に追い打ちをかけないようにする為には？

県内市町村が（法律で定められた税金だけでなく）、９年前（2015 年）に国民健康保険（国保）へ独自に投入していた税金は年間合計 375 億円でしたが、県庁の方針では、２年後（令和 8 年）までに独自の税金投入を『ゼロ』にするよう求めています。これは国保加入者 1 人あたりにすると 9 年前と比べ、年間 1 万 9254 円の増税となります。この金額には、医療費・高齢者の増加、国保加入者の減少による負担の増加額は含めていません。また国保税の督促も県庁として市町村に厳しくするよう求めています。

県民全体と国保加入者の年収比較

	100万円以下	100万円超 150万円	150万円超 200万円	200万円超 300万円	300万円超 500万円	500万円超 700万円	700万円超 1000万円	1000万円超 2000万円	2000万円超
県民全体 割合（％）	3	8	6	2	32	18	12	4	0.5
国保加入者 割合（％）	26	13	10	12	9	3	2	2	0

国保加入者は上記のように、県民全体と比べ、年収が低い状態にあります。払える金額を超えた増税方針になっていると思います。そこで知事に、国保税の『減免』制度の創設を要望しています。

一方、県庁職員の年収UP額は、昨年合計 64 億円で、８年前（2016 年）から昨年までの累積増加額は 113 億円になっているので、「財政が厳しい」とは言えない状況です。

生協連・関係する皆様には、このような状況に置かれている県民も多くいる事をお含みおき頂き、日頃ご相談が寄せられた際のご参考として頂ければ幸いです。（蛇足ですが、国民健康保険について私のHPに詳しく書いております）

このような時代を、みんなで乗り切っていければと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。



「必要とされるもの」を「必要とする人」に

埼玉新聞社

代表取締役社長 関根 正昌

埼玉県生活協同組合連合会の第53回通常総会が開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、県生協連の皆様におかれましては、日頃、埼玉新聞を職場やご家庭でご愛読賜り、厚く御礼申し上げます。

社会はいま、原材料高、円安、人手不足による人件費アップ等の影響で（一時より緩やかになっているものの）コストプッシュ型の物価高に直面しています。県生協連の皆様も運営面で相当なご苦勞をされていらっしゃるかと拝察いたします。弊社は昨年やむなく27年ぶりの講読料の値上げに踏み切らずを得ませんでした。それと同時に、こういう時だからこそ、「必要とされるものを作り、必要とする人に提供する」ことに徹しよう、と確認しました。

生協連の皆様が提供するモノ、サービスを必要とする、たくさんの人々に「必要とされるもの」が届きますように、皆様のご奮闘を心から祈念し、応援しています。



埼玉県生協連第53回通常総会挨拶

J A埼玉県中央会

代表理事会長 坂本 富雄

埼玉県生活協同組合連合会の第53回通常総会が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

肥料や飼料、燃料など生産資材価格の高止まりが続く一方、世界的な物価高騰の中で国産農畜産物だけが取り残されており、生産者にとって危機的な状況となっています。

本年は、「農政の憲法」とも呼ばれる「食料・農業・農村基本法」が、制定以来25年ぶりに改正されます。これを追い風として、JAグループさいたまは、持続可能な地域農業、国消国産（国民が必要とし、消費する食料は、できるだけその国で生産すること）の実現に向け、鋭意取り組んでまいります。

生協の皆様には、今後も連携を強めながら、協同活動を進めていくことを期待いたします。貴連合会のますますの発展と関係各位のご活躍を祈念し、ご祝辞に代えさせていただきます。



持続可能な地域づくりをめざして！

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

埼玉事業本部 本部長 成田 誠

埼玉県生活協同組合連合会第53回通常総会の開催誠におめでとうございます。また私どもの事業・運動の日頃より多大なるご理解・ご協力心より感謝申し上げます。

日頃より地域と密着して、市民の生活や健康を支え、より良い地域社会づくりに尽力されている皆様の活動は、政治の混迷、物価の上昇に伴う生活の困窮、繰り返される凄惨な戦争が社会を覆いつくす中で、あらためて市民の側から社会をチェンジさせることのできる大事な運動であると強く感じております。私ども労働者協同組合運動も生活協同組合運動とも連帯し、共に頑張ってまいりたいと思っております。

最後になりますが、本年11月16日（土）、17日（日）に地域づくりの集会である第6回全国地域おこし名人・達人サミット in 桶川・北本を開催致します。地域の魅力の再発見と地域の課題や市民自治について共に学び合う集会となります。この集会においても生活協同組合の皆さんとも連携し、協同組合の力を地域に伝える大事な機会にしていきたいと思います。

貴連合会の更なるご発展をご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



労働者福祉事業団体と労働組合は

「ともに運動する主体」

一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会

理事長 近藤 嘉

埼玉県生活協同組合連合会第53回通常総会が盛大に開催されますこと、心よりお慶びを申し上げます。また、日頃より埼玉労福協の運動に対しますご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。

「福祉はひとつ」という労福協の原点を大切に、労働運動と労働者福祉事業をはじめ消費者運動、NPO・市民運動などと、それぞれの多様性を認め合いながら様々なネットワークで「つながる運動」を広げ、皆様と共に新しい社会や時代を切り拓いていきたいと思っております。引き続きましてのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

結びに、埼玉県生協連の益々の発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げ、お祝いならびに挨拶とさせていただきます。



安心してくらししていける地域社会づくりへ

中央労働金庫
常務理事 谷内 聡

埼玉県生活協同組合連合会第53回通常総会の開催、誠におめでとうございます。生協連の皆様が多様なニーズに応じて事業を推進し、安心してくらし続けられる地域社会づくりに取り組まれていることと存じます。

私たち中央労働金庫も協同組織の「助け合い・支え合い」が原点にあり、健全で持続可能な福祉金融機関として皆様の「生活応援運動」の役割を発揮し、生涯にわたって安心づくりのサポートをしていく所存です。

メリットのある制度の利用者拡大や預金結集などによるサービス向上に努めてまいります。

まだまだ社会の課題は数多くありますが、お互いに連帯して役割を発揮していきましょう。結びに埼玉県生協連の益々のご発展を心よりご祈念申しあげましてご挨拶いたします。



コロナ禍を越え、社会は次の課題へ

特定非営利活動法人フードバンク埼玉
理事長 とよしま 亮介

埼玉県生協連第53回通常総会の開催、誠におめでとうございます。

吉川尚彦会長理事をはじめ、埼玉県生協連の皆様には、日頃よりフードバンク埼玉の運営にご尽力を賜り、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

私たちのフードバンク事業は、昨年の取扱量が138トンに達し、コロナ禍前の1.6倍にも増加しています。それを裏付けるかのように県内のフードドライブ拠点は100箇所を超え、食糧を必要とする人が日々増加し、未だ課題の解決には至っていません。

これからの社会に必要なことは、支えることだけではなく、解決すること。そのため、埼玉県生協連の皆様からも引き続き自治体や政府への働きかけを積極的に行なって頂き、課題解決のためにお力添え頂ければと思います。

今後ともフードバンク埼玉をどうぞよろしくお願い致します。



暮らしの軸としての生協連

埼玉県地域婦人会連合会
会長 柿沼 トミ子

埼玉県生協連第 53 回通常総会の開催、誠におめでとうございます。

新型コロナウイルスによる世界パンデミックを経てもれば、当たり前のことが当たり前にできることの有難さをことの外、痛感いたします。

しかしながら、ウクライナへのロシアの不法な侵略は増すばかり。加えてガザ地域での紛争等、悲しいばかりの世界状況です。

そんな中であって、私たちは円安、物価高を始めとする生活の不安をぬぐえません。

能登半島地震の被災者の方々には、おかけする言葉さえ見つかりません。今後の暮らしを思う時、生協連の活動は益々私たちの拠り所となりましょう。今後とも県婦連は、今まで以上の連携を強めてまいります。生協連の末広がりの発展を願ってやみません。



SDGs の実現をめざしてともに

新日本婦人の会埼玉県本部
会長 高田 美恵子

埼玉県生協連第 53 回通常総会の開催、おめでとうございます。

平和な社会を希求し核兵器をなくす運動や、食の安全、環境問題、社会福祉など暮らしを守る活動にとりくんでいる生協連の皆様に敬意を表します。

パレスチナ自治区ガザへのイスラエルの武力攻撃が激化し、ジェノサイドを許すなど世界中から抗議の声がおこっています。ロシアのウクライナ侵略も国際法違反です。憲法 9 条を持つ日本が、世界の平和に尽力するべきではないでしょうか。気候危機の打開も、地球と人類の生存がかかった緊急課題です。円安や物価高で暮らしが大変な状況となり、格差社会が少子化をうんでいます。軍備拡大にお金をつかっている場合ではありません。

平和で公正な社会へ、2030 年までの SDGs（持続可能な開発目標）の達成に、ともに全力でとりくみましょう。



すべての子どもたちに平和な未来を！

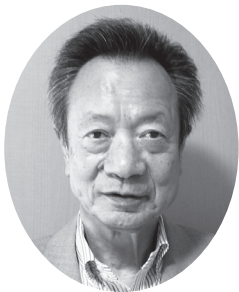
埼玉母親大会連絡会
代表委員 常盤 智子

埼玉県生協連第 53 回通常総会ご盛会おめでとうございます。

生協連の皆様とは消団連や消費者大会で一緒してきました。地域課題の解決に向け行政・諸団体と連携し、より一層豊かな地域社会をめざして取り組んでおられることに、心から敬意を表します。また、母親大会成功のため、ご支援ご協力いただいていることに心より感謝申し上げます。

「核戦争から子どもたちを守ろう」と母親大会は始まりました。母親大会の原点になったビキニ水爆実験で第五福竜丸はじめ多くの漁船が被災してから 70 年。平和の大切さを実感します。子どもたちに平和な未来を手渡すために、平和を願う世界の人々と連帯し、持続可能な社会を実現させてまいりましょう。

貴会の益々のご活躍を期待します。



埼玉県生協連第 53 回通常総会へのメッセージ

埼玉公団住宅自治会協議会
会長 竹村 正

埼玉県生協連第 53 回通常総会の開催を心よりお祝い申し上げます。

埼玉の地域において、食と商品、健康、環境や平和、生活困窮者支援、消費者被害防止など多彩な活動を続けてきたことに、心から敬意を表します。

私たち埼玉公団住宅自治会協議会も「住まいは福祉・住まいは人権」「誰もが安心と豊かさを実感できる住宅政策を」を合言葉に長い間活動を続けてきました。現在国会で審議されている「住宅セーフティネット法」の一部改正の審議において、私たちの要望が反映されるよう、国会各政党・議員への働きかけを強めているところです。2030 年に単身高齢者が 800 万世帯になり、住まいの保障が課題と言われております。

共にがんばりましょう。

埼玉県生協連の更なるご発展とご活躍をご祈念申し上げます。



埼玉県生協連第 53 回通常総会挨拶

さいたま市消費者団体連絡会

代表 廣田 美子

埼玉県生協連第 53 回通常総会の開催、誠におめでとうございます。

コロナ感染症法上の位置付けが変わり約一年。色々な場でのイベントや活動も対面が増え、改めて顔を合わせて語り合えるありがたみを感じております。

円安、物価高騰に追いつかない給与所得、平和を脅かす世界情勢、度々起こる震災や災害など生活の不安は増えるばかりです。

そんな中で安全安心な暮らしを支え、地域での助け合いに目を向けて活動される生活協同組合は市民の大きな支えになっております。私たちも消費者団体として微力ですが共に進んでいきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

埼玉県生協連の益々のご発展とご活躍をご祈念申し上げます。

埼玉県生活協同組合連合会

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 7-11-5
Tel 048-844-8971 Fax 048-844-8973
HP : <https://skenren-coop.jp>